

ニュースレター

いりおもての森から

林野庁 九州森林管理局
西表森林環境保全ふれあいセンター
平成20年5月発行 NO:13号



ゲットウ(月桃)

仲間川支流に木道が完成

西表島東部の大富遊歩道沿いの西表島亜熱帯樹木展示林から仲間川の支流（北船付川）に至る延長約150m（幅1.2m）の木道が、この度、沖縄森林管理署の施工により完成しました。

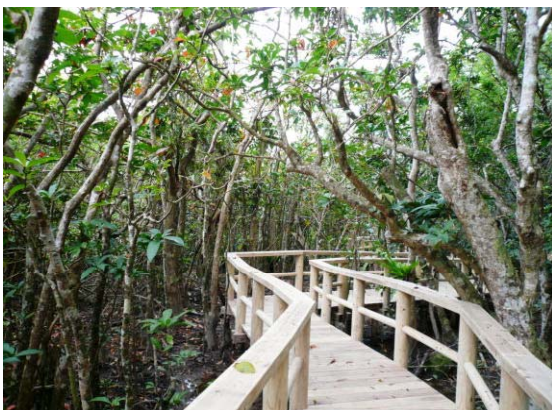
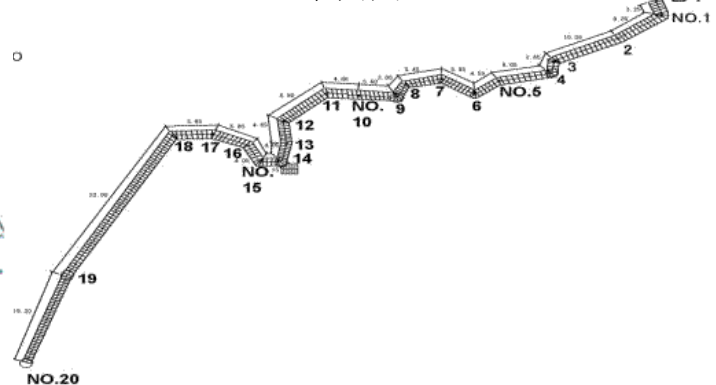
この木道は、主に西表島の小中学校の児童生徒が、潮間帯のマングローブ林から湿地林のサガリバナ、さらに、山地林のオキナワウラジロガシ等、標高差の違いにより出現する多種多様な植生及び希少な動植物等について理解を深める森林環境教育の場として利用することとしています。

一般利用者については、沖縄森林管理署と西表島森林環境保全ふれあいセンターが主催するツアーガイド講習会を受講したガイドが、安全に案内する場合に限り利用することとし、ガイドには希少野生動植物の生息情報等のモニタリングをお願いしています。

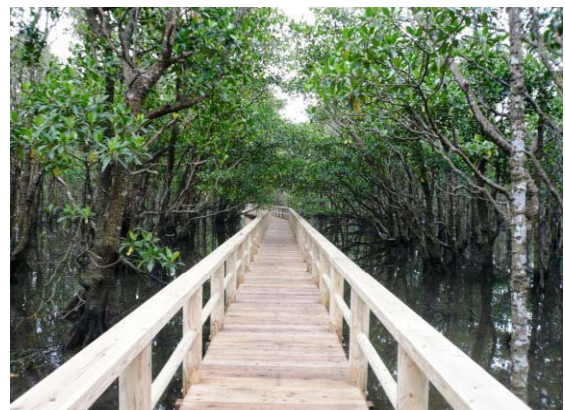
位置図



平面図



木道（サガリバナ林内）



木道（マングローブ林内）

平成20年度ヒナイ川の利用状況調査（4月分）報告

平成20年4月期の利用状況調査を、ヒナイ川は22日（火）、西田川は23日（水）に実施しました。結果は、ヒナイ川がカヌーツアー9組（44名（ガイド含む））のみで、西田川については利用者はいませんでした。西表島はレジャーシーズン最中といった感じですが、当日は、あいにくの大雨で利用者は少なかったようです。

利用者の中には、アメリカ、北欧など海外からのツアー客も見受けられました。「あいにくの雨で残念でしたね」と言葉をかけると、「アドベンチャー」と意外にも満足そうでした。また、北欧の方は、そば降る雨の中、滝壺で泳ぐなど、外国の方は自然との親しみ方が少し違うようです。

※利用状況調査については、昨年度に引き続き、本年度もヒナイ川は月1回、西田川は2ヶ月に1回実施しますので、調査にご協力いただきますようお願い致します。



ヒナイ川での調査

仲間川のモニタリングを実施

4月16日（水）、仲間川地区保全利用協定の締結事業者が行う仲間川の砂泥の移動等のモニタリング調査の支援を、当センター職員が実施しました。

このモニタリングは3ヶ月毎に実施しており、昨年1月に開始し、今回で6回目になります。



調査状況（仲間川汽水域）



モニタリングの説明

また、4月22日（火）には、仲間川地区保全利用協定の締結事業者、環境省、沖縄県、竹富町などの関係者による意見交換会が開催され、当センターはこれまで実施してきたモニタリング（①砂泥の移動調査、②ヒルギ類の幼木の生長調査）について説明しました。

船浦ニッパヤシのモニタリング調査を実施

4月15日（火）、船浦ニッパヤシ植物群落保護林のモニタリング調査を実施しました。今回は、地盤高を主体とした調査でしたが、地盤高は特に変化は見受けませんでした。ニッパヤシの生長状況は一昨年来の大型台風により成葉に被害を受けていましたが、今回、殆どの株に新芽が観察されるなど、樹勢の回復は順調に図られているものと思われました。



生育状況調査



新たな果実も確認

古見岳登山道沿線の名木等を調査

5月8日に、古見岳登山道沿線における巨樹巨木の調査を実施しました。

当センターでは、今後、西表島の巨樹、巨木及び神木などの調査を行い、とりまとめたいと考えています。このため、西表島で現存している巨樹、巨木、神木あるいは何らかのいわれのある木をご存じの方からの情報をお待ちしていますので、よろしくお願いします。

※右の写真は、ツルアダンが巻き付いた「フクギ」
胸高直径51cm、樹高11m



転出入者のお知らせ

平成20年4月1日付で1名が転出し、1名が転入しました。

*** お世話になりました ***

元自然再生指導官 山下 憲明 (担当: 自然再生)

転勤先: 九州森林管理局 北薩森林管理署 (鹿児島県さつま町) 流域管理調整官



西表森林環境保全ふれあいセンター在勤中は、地域の方々に大変お世話になりました。
大原中学校の古見岳登山(西表島最高峰)に始まり、船浦中学校のテドウ山登山、九州森林倶楽部及び森林生態系同好会の自然観察会並びに各種モニタリングなどの業務を通じ、西表島の神秘あふれる多くの自然に触れることができました。

また、マングローブ林のモニタリング調査などで現場に出る度に上着まで濡れる大汗も、直ぐに乾くからか苦にならなかったことが思い出されます。

西表島を1年で離れ、赴任前に考えていた沢山の仕事への思いの一端も出来なかったことに一抹の寂しさが残ります。

最後に、西表島の豊かな自然が今後も維持され、訪れる多くの人々に感動を与えられるように、”西表森林環境保全ふれあいセンター”が今後益々活躍されることを期待しています。

*** お世話になります ***

自然再生指導官 濱田 辰広 (担当: 自然再生)

前任地: 九州森林管理局 (熊本市) 計画部 指導普及課 技術開発主任官



西表での勤務は初めてのこととなりますが、西表は固有の生物種・亜種、が分化するなど、生物学的にも非常に貴重な地域となっており、イリオモテヤマネコ等の固有種をはじめ希少な動植物が生息・生育しており、このような地で仕事ができることに感謝しております。

また、当センターが平成16年に設立されて5年目となりますが、諸先輩たちが取り組んでこられたこれまでの自然景観の保全・整備など、国民の皆様に喜んで利用していただけるよう引き続き取り組んで参りたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

西表島の樹木

今回は、西表島に自生するノボタン科の植物を紹介します。

①ノボタン（ノボタン科ノボタン属）

学名：Melastoma candidum D. Don
分布／奄美以南の琉球列島；台湾，中国南部，
インドシナ，フィリピンに広く分布

生育環境・形態など

高さ1.0～1.5m程度の常緑低木で乾燥した草地や林縁などの明るい場所に生育。枝は四角柱状で柔らかい毛が密につく。

葉は対生し卵形、卵状長楕円形、全縁、両面に毛が密生。花は5～8月に紅紫色まれに白色の径3～8cmほど、枝先の短縮した集散花序につくか単生する。種子は湾曲する。



ノボタン

②ヤエヤマノボタン（ノボタン科ハシカンボク属）

学名：Bredia yaeyamensis (Matsumura). Li
分布／琉球の固有種で石垣島，西表島に分布。

生育環境・形態など

高さ1.0mほどの常緑低木で林内の多少明るく乾燥した場所に多い。葉は対生し革質、楕円形、倒卵状長楕円形、まばらに微鋸歯があるか、ほとんど全縁、両面ともに無毛。花は楕円形で薄ピンク色、5～7月に開花する。花は径2cm以下、葉腋に束生するか枝先の円錐花序につく。種子は湾曲しない。ハシカンボクとは花期、毛の有無で区別。



ヤエヤマノボタン

③ハシカンボク（ノボタン科ハシカンボク属）

学名：Bredia hirsuta Bl.
分布／九州南部，屋久島，種子島，奄美大島，沖縄島，石垣島，西表島，与那国島に分布

生育環境・形態など

高さ0.3～1.0m常緑低木で山地の谷沿いに多く生育する。葉は対生し薄い草質、卵状、卵状長楕円形。花は7～9月頃、薄ピンク色から薄赤紫色。葉や茎に毛を密生する。ヤエヤマノボタンとは花期、毛の有無で区別できる。



ハシカンボク

林野庁 九州森林管理局 西表森林環境保全ふれあいセンター

〒907-0004 石垣市宇登野城55-4 石垣地方合同庁舎内

TEL:0980-88-0747 FAX:0980-83-7108 URL: <http://www.kyusyu.kokuyurin.go.jp/huresen/huresentop.htm>